

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

新2002年11月28日

28号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜港北区下町6-31-8

種ホーム「しもだ」内

TEL045-562-3600

FAX045-562-5991

美しく紅葉した樹々も葉を落とし、柿やユズなどのなり物がたわわに実って、豊かな冬の訪れを感じさせます。皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか。...

私たちのグループホームが無事1周年を迎えたのを記念し、ご寄稿いただきました。



グループホーム「よつばホーム」

開設1周年をお祝いして

港北区福祉保健センターサービス課担当課長

加藤 慎二



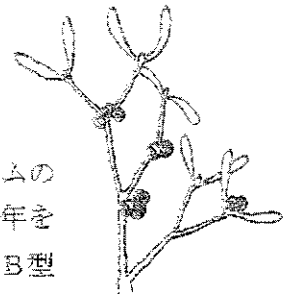
開設1周年おめでとうございます。「たわわ」毎月楽しみに読まさせて頂いています。昨年の人所式では、入所者の皆様、職員、ご家族、そして「支える会」の皆様、たくさんのボランティアの皆様の笑顔が、花で飾られたホームにあふれていたことが心に強く残っています。

「たわわ」を読んでいると、開所後の皆様の生き生きとした生活の様子が伝わってきます。「他人に相談したり援助を求めて生活できることを「自立」といい、人の力を得られないことを「孤立」という。」この言葉を思い出します。これからも、ホームの様子を聞かせてください。「めがねの声」楽しみにしています。

来年度施行される「支援費制度」は、障害者の自己決定を尊重し、事業者と対等な関係に立って、障害者自らがサービスを選択する仕組みとなっています。これは「支える会」がめざしてきたことであり、いま求められている支援のあり方であると思います。

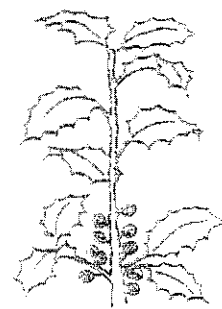
開設1周年に当たりまして、長く着実な活動を続けてこられた入所者、関係者の皆様のご努力に、深く敬意を表しますとともに、皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

安定した運営をするために



地域でふつうに暮らしたい！ そんな思いを実現したグループホームの制度がスタートしたのは、昭和60年のことでした。それから10数年を経て、今では横浜にA型グループホーム（運営委員会が設置運営）とB型グループホーム（社会福祉法人などが運営）合わせて、200近くのグループホームがあり、たくさんの人々が、街の中で暮らしています。それぞれに、暮らすために必要な支援を受けながら、自分らしい生活を送っています。

昨年、よつばホームがスタートしました。A型グループホームとしては、港北で3館目です。長い時間をかけ準備をしてスタートしたので、入居者の人達が、安心して暮らせる場づくりが、この1年で随分進んだように思えます。ひとりひとりの暮らしが、守られていると感じます。将来にわたり、安定したグループホームの運営をするために、これから支援する人達のつながりが、増々大事になってきます。よつばホームは、今、将来に向けての一歩をふみ出したばかりです。若いグループホームに、私の出来るところで、私らしく、関わって行こうと考えています。



正 援 協 地域コーディネーター
清水 恵子

「どんなに重い障害のある人も一人一人の個性に合わせて地域で生きていけるように」と言う考えは、今やどこでもきける声となりましたが、実際に重度重複の人達がグループホームで暮らすということを実現するのは、そう簡単なことではありません。

もし失敗したら、取り組んだ当事者はもちろん、漸く軌道に乗りつつある他のグループホームにも迷惑が掛かるというところまで考えねばならなかったのです。

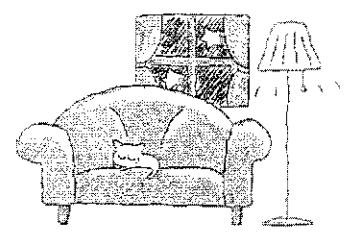
しかし、どんなに重い障害のある人でも、その人に合った適切な支援があって、注意深くケアが出来れば、グループホームの中でも健康に過ごせるという事がこの一年の実践の中でみえてきました。むしろ公的な支援を受け、少人数のグループで住む方が、きめ細かく楽しい生活が出来る事を確信できた一年だったと思います。

先日新聞によれば、宮城県では施設を解体し地域の中での暮らしをサポートしていく事へ大きく踏み出したと報じています。久しぶりの朗報でした。

グループホームでは、先駆的な取り組みをしてきた横浜市の専です。沢山の支援を必要とする人達には、それなりのサポートをしていただきたいと要望したいところです。

60

めがねの声



この前講演会で スエーデンのエレーン ヨハンソンたちから スエーデンでの 重度の障害者が 喜んでいるグループホームの話しを聞きました。

作った人は お母さんたちで、別にデイサービスの運営もしていて、私の母たちと同じだなと思いました。

私が一番おどろいたのは 一人分の部屋 の広さです。キッチンも シャワーも、ベッドルームも、リビングルームもあってテラスと外に出る出入り口も あるそうです。

日本では 障害者が危ない目にあってから 考えることが多いと思いますが スエーデンのホームは はじめから 障害者に合せて水洗トイレの栓などを 壁にうめこむなど いろいろな工夫がしてあるそうです。場所も買い物や 駅前に便利なところに作るそうです。

エレーン ヨハンソンさんの障害者の娘さんが グループホームに入り、もう 一人の 子供も自立した時に お母さんは 淋しくて自分 はあまり好きでは なかったのに子供の好きだった音楽のテープなどを 買って家でいつもかけていたと言いました。

私は「ああ そうなんだー」と思いました。お母さんたちも 子供を自立させる 手伝いをしながら 淋しいのだということが、よくわかりました。これまでも少しはそうおもっていましたが、、、。

私も グループホームに 住むのなら 個人個人の リビングルームがあるような所がいいなと思いました。夢ですね！！
ほんとは むずかしさも知れないけれど……

大原友子

今月のよつばホーム

今月は、新しい非常勤職員を紹介します。

10月からよつばホームの非常勤職員として働かせて頂いている村山悟美むらやまさとみです。以前は、デパートで経理の仕事をしていました。毎日の売上の集計や、取引先への振込が主な仕事でした。イメージ的には銀行の窓口の様な感じでした。一日中数字に追われる毎日……。お中元やお歳暮の時期には自分の紹介者がどれ位買ってくれたかデータで比較されます。「ノルマはない！」と言われていましたが……。利益を追求したりするのは、私には出来ないと思いました。

今まで介護の仕事をした事がなかった私が、介護に興味を持つようになったのは、足が不自由な祖父が椅子から立ち上がろうとしてバランスを崩し、倒れたのを目の当たりにしたからです。私はどうしたらいいのか分からず、ただ「大丈夫ですか？」と声を掛ける事しか出来ませんでした。そして、そんな自分に情けなさともどかしさを感じました。

これがきっかけで「私にも何か出来る事はないか？」と考える様になりました。

よつばホームでは、個性豊かな入居者の方と楽しい時間を過ごしています。私が一番好きなのは、入浴タイムです。その日の出来事や、家族の話をするのがとても楽しいです。

先月、入居者の方達とロシアのチャリティーコンサートに行ってきました。一緒に手をたたいたり、歌ったりしている表情はとても優しく、素敵でした。私は、その笑顔からいつも元気をもらっています。そして「ありがとう」と言われた時は「この仕事をやっていて本当に良かったなあ」とつくづく思いました。

私もやっと、誇りを持てる仕事を見つけた感じです。これからも、入居者の方がいつも笑顔でいられる様な雰囲気を作っていけたらと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

ほすと

「支える会」では、来年の春までにもう一度、学習会をしたいと思います。これまでも、支援費の事や、重度重複障害者の将来の事などについて講演会を行ってきました。みなさんの希望する問題があれば企画をしたいと思っておりますので、ぜひご意見をお寄せください。

障害者福祉に限らず、幅広く楽しい会ができればと考えています。気軽にお電話や、FAX、お手紙などでもどうぞ……

*ご入会、ご継続ありがとうございます。(敬称略)
《賛助会員》 木下 良子 (10月入会)
会員・19名 賛助会員(個人)・123名 賛助会員(団体)・4団体

＝ 募集します！ ＝

「支える会」では、第2館めのグループホームに関わる職員を募集します。当面の身分は、よつばホームの非常勤職員として研修をしていただくこととなります。よい人がいらっしゃれば、ご紹介ください。

